

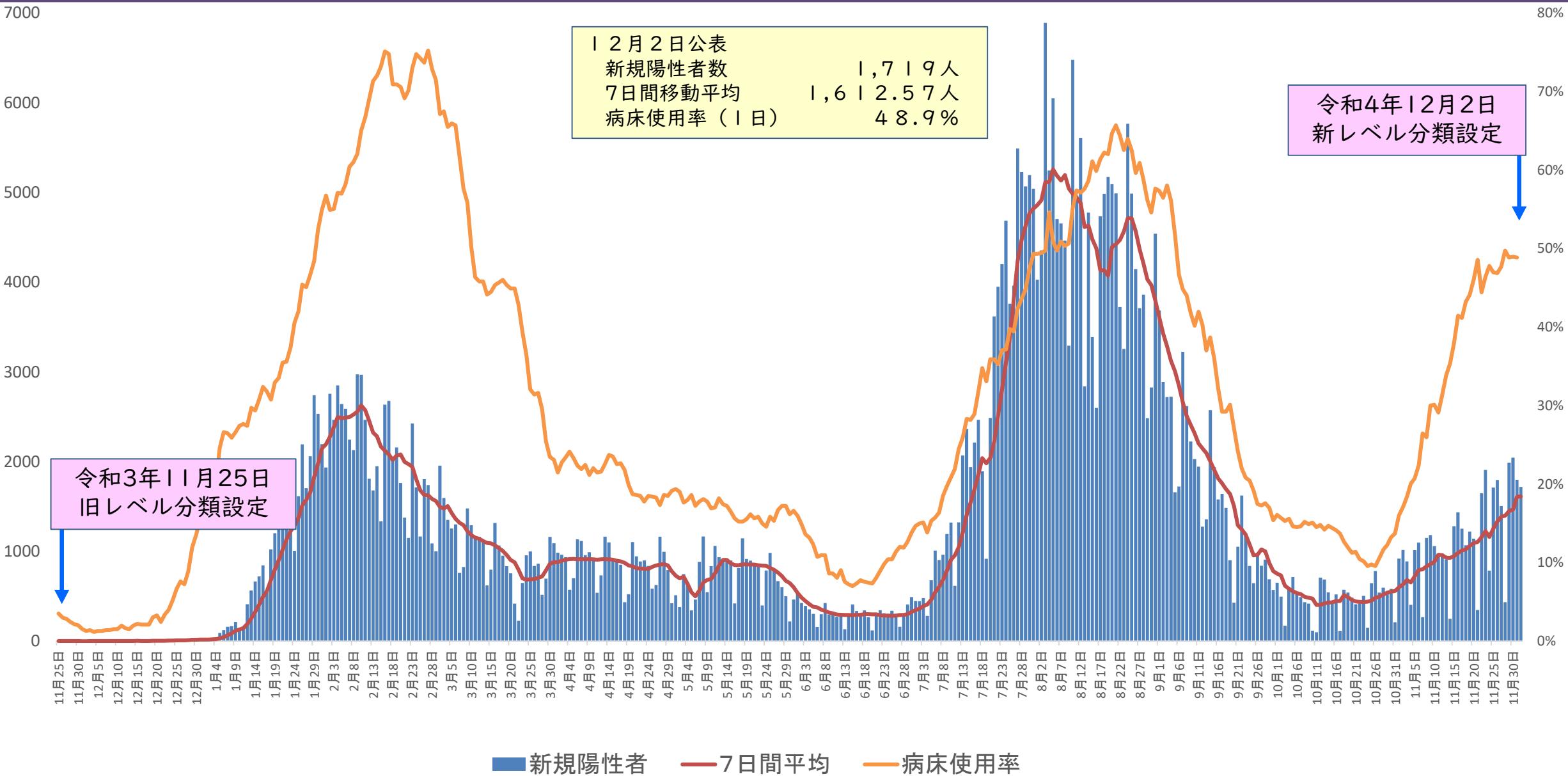
# オミクロン株の特性を踏まえたレベル分類の見直し



令和4年12月2日

京都府知事 西脇 隆俊

# コロナ新規陽性者数等の推移とレベル分類の設定



# オミクロン株の特性を踏まえたレベル分類の見直し

政府分科会の議論を踏まえ、  
国において新たなレベル分類に見直し

＜令和4年11月11日新型コロナウイルス感染症対策分科会とりまとめ＞  
「今秋以降の感染拡大で保健医療への負荷が高まった場合に想定される対応」

- ・ オミクロン株に対応し、外来医療等の状況に着目した新たなレベル分類に見直し
- ・ 感染拡大が進行し、保健医療への負荷が高まった段階等、各段階において取り得る感染拡大防止措置について整理

# オミクロン株の特性を踏まえたレベル分類の見直し

## 【京都府における新たなレベル分類】

- レベルの枠組みやレベルごとの事象や指標については、**国に準拠**
- レベルの移行にあたっては、感染状況のほか、発熱外来や入院医療、救急搬送など保健医療の負荷の状況を参考に**総合的に判断**

## <国の新たなレベル分類>

新レベル分類	保健医療の負荷や社会経済活動の状況	
レベル1 (感染小康期)	<ul style="list-style-type: none"><li>・外来医療・入院医療ともに負荷は小さい</li></ul>	病床使用率:概ね0~30%
レベル2 (感染拡大初期)	<ul style="list-style-type: none"><li>・発熱外来の患者数が急増し、負荷が高まり始める</li><li>・救急外来の受診者数も増加</li><li>・病床使用率、医療従事者の欠勤者数も上昇傾向</li><li>・職場で欠勤者が増加し始め、業務継続に支障が生じる事業者も出始める</li></ul>	病床使用率:概ね30~50%
レベル3 (医療負荷増大期)	<ul style="list-style-type: none"><li>・外来医療の負荷が高まり、発熱外来や救急外来に多くの患者が殺到する、重症化リスクの高い方がすぐに対応できなくなる事象が発生</li><li>・救急搬送困難事例が急増する</li><li>・入院患者も増加し、また医療従事者にも欠勤者が多数発生し、入院医療の負荷が高まる</li><li>・職場で欠勤者が多数発生し、業務継続が困難になる事業者も多数発生</li></ul>	病床使用率:概ね50%超 重症病床使用率:概ね50%超
レベル4 (医療機能不全期)	<ul style="list-style-type: none"><li>・膨大な数の感染者に発熱外来や救急外来で対応しきれなくなり、一般的な外来にも患者が殺到する事象が発生</li><li>・救急車を要請しても対応できず、救急搬送困難事例の件数として把握できない状態が生じている。通常医療も含めた外来医療全体がひっ迫し、機能不全の状態</li><li>・重症化率は低くても、膨大な数の感染者により、入院が必要な中等症Ⅱ・重症者の絶対数が著しく増加</li><li>・多数の医療従事者の欠勤者発生と相まって、入院医療がひっ迫</li><li>・入院できずに、自宅療養中・施設内療養中に死亡する者が多数発生</li><li>・通常医療を大きく制限せざるを得ない状態</li><li>・欠勤者が膨大な数になり、社会インフラの維持にも支障が生じる可能性</li></ul>	病床使用率:概ね80%超 重症病床使用率:概ね80%超